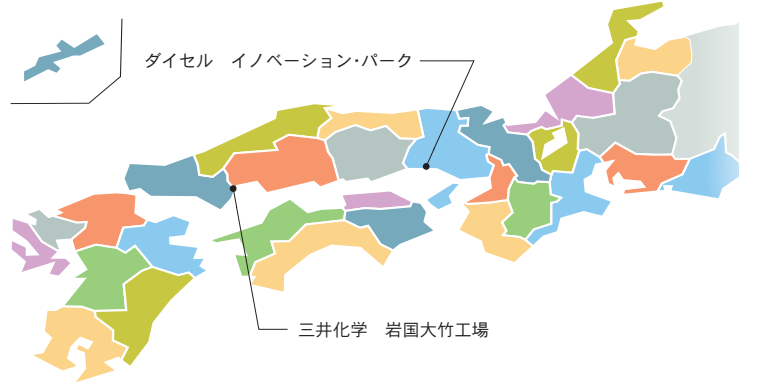




わが社の西日本拠点 ④



技術錬磨、さらなる発展へ

三井化学

岩国大竹工場

小瀬川を挟み山口県(岩国市、和木町)と広島県(大竹市)にまたがって立地



今年、創立20年を迎えた三井化学。多くの化学技術をルーツに持つ同社だが、現在の中核技術は石油化学工業だ。その石油化学の創業の地、岩国大竹工場(山口県、広島県)は1958年に日本で最初のエチレンセキターが運転を始めた総合石油化学工業の草分け。現在は、オレフィン系、芳香族系技術を駆使し開発

した特殊製品を主力の生産品とし、重点分野のモリテン領域を中心に全社の成長を牽引している。三井化学が石油化学へ進出するきっかけは、1956年のチークラー法ポリエチレン技術の導入だ。石炭化学が主流の当時、欧州視察でチークラー博士を訪ねた田健三井化学工業社長は最先端技術に触れ、導

特殊ポリマー群や加工品で成長牽引

入を断つ決断した。日本で工業化研究に取り組む傍ら、三井各社の出資により三井石油化学工業を設立。岩国大竹工場を設け、岩国陸軍燃料廠跡地に設置した岩国工場、さらには大竹地区に敷地を拡張し、エチレン、ポリエチレン、フェノール、ポリエチレン、フエノール、テレフタル酸を軸に総合石化工場の礎を築いた。1970年代に三井の石化事業は規模拡大を目的にエチレンなど主軸プラントを宇美地区に移し、これを契機に岩国大竹工場は、オレフィン系特殊ポリマーや半導体向け製品などの「高機能品」と、高純度テレフタル酸(PTA)およびPET樹脂を二貫生産する基礎化学品を柱とする

を柱とする。研究開発は1997年の折りに三井と旭化成の合併により「旭化成」に統合されたが、石化技術の発祥はすべて岩国大竹にある(岩国大竹工場長の細見泰弘執行役員)ことから、重合同業の研究や製造、特殊樹脂の工業化試験の機能を残し、現在も100人規模の研究者を備える。岩国大竹工場の現在の成長の柱は特殊ポリマー群だ。日本最初のエチレン設備の跡地では世界で唯一手がけるポリメチルペンテンポリマー(TPP)を生産し、難燃フィルムや食品用ラップなどに展開。潤滑油添加剤「ルーカント」、リチウムイオン電池用セパレーター「エンジン」周辺部品に用いる変成ポリアミド「アレン」など多種多様な高機能品は、いずれも操業度が高く、重点事業であるモリテン分野の成長を支える。岩国大竹は、半導体製造工程で使うフォトマスク用防塵カバー「三井バリアック

を柱とする。研究開発は1997年の折りに三井と旭化成の合併により「旭化成」に統合されたが、石化技術の発祥はすべて岩国大竹にある(岩国大竹工場長の細見泰弘執行役員)ことから、重合同業の研究や製造、特殊樹脂の工業化試験の機能を残し、現在も100人規模の研究者を備える。岩国大竹工場の現在の成長の柱は特殊ポリマー群だ。日本最初のエチレン設備の跡地では世界で唯一手がけるポリメチルペンテンポリマー(TPP)を生産し、難燃フィルムや食品用ラップなどに展開。潤滑油添加剤「ルーカント」、リチウムイオン電池用セパレーター「エンジン」周辺部品に用いる変成ポリアミド「アレン」など多種多様な高機能品は、いずれも操業度が高く、重点事業であるモリテン分野の成長を支える。岩国大竹は、半導体製造工程で使うフォトマスク用防塵カバー「三井バリアック



三井化学 岩国大竹工場 〒740-0061 山口県玖珂郡和木町和木六丁目1番2号

ダイセル

イノベーション・パーク



高橋所長

ダイセルは新規事業創出の加速と既存事業強化を目的に今年4月、兵庫県姫路市に新サイト「イノベーション・パーク」を開所した。研究開発本部コーポレート開発センターや各事業カンパニーの研究開発部門が混在している総合研究所と、ダイセル式生産革新やプロセス革新を担う生産技術本部、環境保全・安全確保を推進するレスポンスセンターなどが入った。また、ダイセルが歴史を重ね、築き上げてきた自然環境と

「技術結集の場」に姫路から成果発信

新設したiCubeの執務棟



オープンラボで協業推進

共生する企業であることを象徴する拠点として「パーク」と名付けた。「研究開発と生産技術の連携を進めるうえでも「研究所」という

名称では十分ではなかった。高橋都夫執行役員「イノベーション・パーク所長」は「約360人が常駐する

イノベーション・パークのコンセプトは「融合」機能「オープンラボ」を軸に、長期プロジェクトの中期計画「3D

ユネーション」の5つの。これを実現するための工夫が随所に施されており、長期プロジェクトの中期計画「3D

ユネーション」の5つの。これを実現するための工夫が随所に施されており、長期プロジェクトの中期計画「3D

ユネーション」の5つの。これを実現するための工夫が随所に施されており、長期プロジェクトの中期計画「3D

ユネーション」の5つの。これを実現するための工夫が随所に施されており、長期プロジェクトの中期計画「3D

ユネーション」の5つの。これを実現するための工夫が随所に施されており、長期プロジェクトの中期計画「3D

ユネーション」の5つの。これを実現するための工夫が随所に施されており、長期プロジェクトの中期計画「3D

「iCube」を達成するための体制を整った(同)。中核拠点で新執務棟や実験棟となる「iCube」は、「iCube」は、「Innovation for Production Product」という3つの「Innovation」を表現した。新設の執務棟(iCube)は5階建て、延べ床面積5754平方メートル。1階はガラス張りの玄関を経て、吹き抜けのロビーに隣接したレセプションホールは50名収容でき、同時通訳ブースも備える。2階にはさまざまなサイズの会議室フロアを整備した。3、4階は大執務室。多彩なコミュニケーションが配置され、渡り廊下を利用した自由スペース、また吹き抜けの大階段もコミュニケーションが図られる工夫が施されている。柱のないフリーアドレスの執務室には、木材に囲まれた打ち合わせスペースを随所に設置。掘りこたえのテーブルも3階と4階に配置し、テラスごとに各部門の技術者が膝を付き合わせる。5階はガラス張りのカフェテリアで、瀬戸内の海と

同社の主力拠点である姫路製造所新工場が一望できる。屋上緑化も施した。執務棟と各階の連絡廊下で直結している6階建ての実験棟(同2号館)は、クリンルームを対称としたオープンラボがある。ここでのオープンラボは、一部だが、当社が持ち合わせる最新の技術と連携させていかなければならない。また、1階にある口腔内崩壊剤用プレミックス添加剤「アラジン」や「アラジン」や「アラジン」の製造用速凍器で、虹彩剤などのセンシ

オープンラボが図れる工夫が随所に施されている。オープンラボのクリンルーム(下)はオープンラボの二翼を担う

オープンラボが図れる工夫が随所に施されている。オープンラボのクリンルーム(下)はオープンラボの二翼を担う

オープンラボが図れる工夫が随所に施されている。オープンラボのクリンルーム(下)はオープンラボの二翼を担う

安全活動、若手育成にも力

に力を入れる。開所以来、月10件ほどの見学があるという。異人館の設計は代通天閣などを手がけた建築家志保氏で、建屋にはダイセルの原色であるセルロイド製品が展示してある。19年の創立100周年に向けて同パーク敷地内の整備計画もあり、資料館としての活用も含めた検討が進められる。

ダイセル イノベーション・パーク 〒671-1283 兵庫県姫路市網干区新在家1239